

# 「安産」に対する鍼灸治療の効果について

## —分娩時間を中心とした検討—

北海道 釧路市 杏園堂鍼灸院  
熊坂 由希子、松原 麻実、須藤 隆昭

### 【目的】

当院では、年間に 50 名前後の妊産婦の治療を行っており、当学会で、「鍼灸治療による陣痛促進の効果について」、「妊婦のマイナートラブルの鍼灸治療の効果」などの報告をしてきた。今回は「安産」をテーマに検討した。常盤<sup>1</sup>の研究では、初産婦は「分娩様式」、「分娩時間」、「出産時の不安」の 3 要素が、また経産婦では「出産時の不安」、「分娩様式」、「夫の対応に対する妻の満足度」の 3 要素が出産体験の評価に影響を及ぼすと報告されている。また、ある妊産婦向け雑誌のアンケート結果によると、「安産」に対するイメージとして「時間がかからない」「時間が短い」といった項目が初産婦、経産婦ともに上位になっている<sup>2</sup>。以上の報告を鑑みて、本研究では「分娩所要時間」に鍼灸治療が及ぼす影響について検討した。

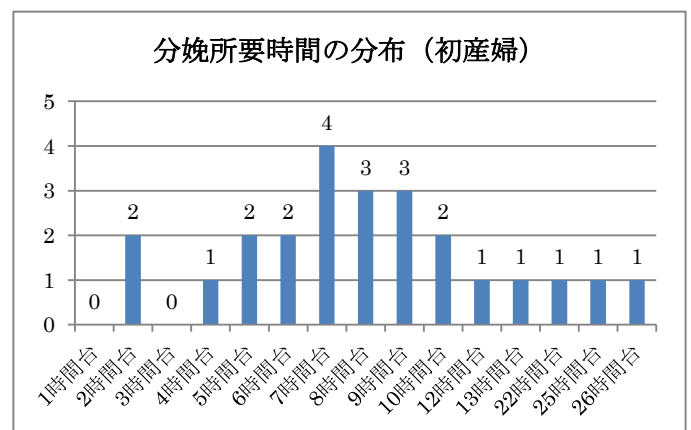
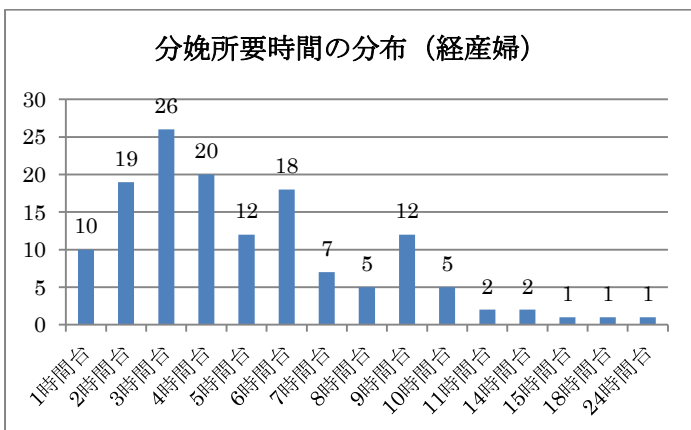
### 【方法】

対象は 2008 年 1 月から 2012 年 12 月までの 4 年間に助産院・マタニティアイより紹介を受け来院した妊婦で、鍼灸治療開始前に研究のためのモニター治療である旨の了解を得た 192 名とした。刺入は切皮程度。証に合わせて本治法を施し、それらに加え、三陰交、足三里、内関、腎兪、脾兪、肝兪などを適宜選択し使用。また、症状に応じて至陰、三陰交、足三里に棒灸および糸状灸で温熱刺激を与えた。治療はリクライニングで上半身を 15～30 度挙上するセミファーラー位で 15 分、側臥位で 15 分の計 30 分とした。

### 【結果】

助産院で出産した 166 例のうち、経産婦 143 名（平均治療回数 3.66 回、平均年齢 31.5 歳）、初産婦 23 名（平均治療回数 4.04 回、平均年齢 26.9 歳）の分娩所要時間について検討した。

経産婦での最低所要分娩時間は 1 時間 10 分、最もかかった例では 24 時間 15 分であった。3 時間台が最も多く 26 例。6 時間未満が合わせて 87 例となり、全体のほぼ 61% を占めた。また、初産婦での最低所要分娩時間は 2 時間 1 分、最もかかった例では 26 時間 1 分であった。10 時間未満が合わせて 17 例となり、全体の約 74% を占めた。



経産婦の平均分娩所要時間は5時間37分、初産婦については10時間34分であった。参考までに一般的な分娩所要時間と、毎年医療実績を公表している大阪府の箕面レディースクリニック、院内助産院をいち早く設けた神戸市の佐野病院助産科での平均分娩所要時間を上げた。いずれも、本研究における平均分娩所要時間の方が短い結果となった。

	経産婦	初産婦
本研究	5時間37分	10時間34分
一般的な分娩所要時間 <sup>3</sup>	6～8時間	11～15時間
箕面レディースクリニック <sup>4</sup>	6時間42分	11時間42分
佐野病院助産科 <sup>5</sup>	7時間21分	18時間11分

#### 【考察】

本研究で対象とした経産婦、初産婦の平均分娩所要時間は、ともに一般的な分娩所要時間よりも短い結果となった。本研究で対象とした妊産婦は全て、鍼灸治療を受けており、鍼灸治療が何らかの影響を及ぼしたと推察される。

今後は「安産」に鍼灸が及ぼす効果についてさらに多方面から検討を進めていきたいと考えており、ご批判やご助言等々いただければ幸いである。

【謝辞】 今回の研究に際しましてご協力頂いた、助産院「マタニティ・アイ」の成瀬院長、並びにスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

連絡先

杏園堂鍼灸院

北海道釧路市愛国 191 番 5717

電話 0154-39-2589

メールアドレス kyoendo@anzu946.com

ホームページ <http://anzu946.com/>

キーワード：鍼灸、安産、分娩所要時間

<sup>1</sup> 常盤洋子. 出産体験の自己評価に影響を及ぼす要因の検討—初産婦と経産婦の違い—. 群馬保健学紀要. 2001;22:29-39

<sup>2</sup> 前田宗徳. 妊娠中と産後で考え方が変わる？安産ってどんなお産？.

<http://baby.goo.ne.jp/member/ninshin/anzan/1/>

<sup>3</sup> 日本産科婦人科学会雑誌. 2008.20;60(10).N-454

<sup>4</sup> 箕面レディースクリニック 2011 年度実績 <http://www.mino-lc.net/date/date01.html>

<sup>5</sup> 三浦徹. 助産科—産科医療の新しい方向性—. 日産婦医会報. 2006.2